

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	おれんじ村		
○保護者評価実施期間	令和 6年 11月 1日		～ 令和 7年 1月 16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19	(回答者数) 11
○従業者評価実施期間	令和 7年 1月 17日		～ 令和 7年 1月17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 1月 31日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業所の職員は、公認心理師や認定心理士をはじめ、心理職が多く在籍しており、お子様への支援を心理的な観点を始め、多面的な支援を行っています。合わせて、音楽療法士や作業療法士も在籍しているので、多職種でそれぞれのお子さんにアプローチできます。	心理的なアセスメントやアプローチだけでなく、お子さま一人ひとりの学習スタイルを考えて支援を行っています。また、多職種でひとりひとりのお子さまと関わることで、いろいろな角度からお子さまに合った活動を提供しています。	今後さらにフォーマルなアセスメントを取りいれて、支援を行えるようにしていきます。
2	ペアレントプログラムを定期的に行っており、保護者様の支援にも力を入れています。	お子さまの特性理解だけでなく、年齢ごとの発達段階や声掛けなど関わり方、就園、就学、福祉制度、福祉サービスなど、多様な情報提供を行っています。また、保護者様同士が交流できる場になっています。	保護者様のお話を伺う時間をさらに確保できるようにしていくこと、保護者様に適切な助言や提案ができるように、スタッフが研修等に参加することでスキルアップを目指します。
3	やり取り遊びを1対1で行い、やり取り遊びの評価も取り入れ、お子様の対人関係や社会性の発達などの支援に力を入れています。	同じ遊びでも、遊びの広がりや、人への関心が向くように支援しています。また、同じ玩具を使う遊びでも見立て遊びやごっこ遊びに展開できるように、スタッフがサポートしつつ遊びの幅を広げるようにしています。	自由場面でも遊びの広がりや人との関わり、他児との関わりが増えるように、意識して取り組んでいきたいと思えます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別課題を行うスペースが少ないことが挙げられます。	建物の構造上、限界があります。	パーティションで区切るなどの支援を行います。
2	目的別エリアが少ないことが挙げられます。設定活動をするエリアと、運動エリア、お弁当を食べるエリアが重複しています。	建物の構造上、限界があります。	時間やパーティションで区切るなどの支援を行います。イラストを用いて、この活動はここで行うことをより明示的にお子様にお伝えします。
3	保護者様参加型参観日が少ない事が挙げられます。	定期的に週ごとに開催していますが、お仕事をされている保護者様のご都合が合わない事が挙げられます。	多忙な保護者様が参加しやすいように、祝日のある週に、参加型参観日を設けられるようにするなど、工夫いたします。